

第1回 総合的な学習研究部研修会

令和元年 6月5日

【講話】

浜松市教育委員会指導課指導主事 縣 倫子 先生

新学習指導要領における総合的な学習の時間 ～学校の教育目標の実施に向けた総合的な学習の時間のあり方～

総合的な学習とキャリア教育との違いは、総合的な学習は教科であるのに対し、キャリア教育は教育活動全体を通して行うものであるということです。総合的な学習の評価には、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」の3つの観点があり、学校ごとに決めます。評価の鍵は全体計画にあります。総合的な学習主任として、1年をどのように振る舞うかによって総合的な学習の進み方が変わります。子供たちのために主体的に考えてください。



全体指導計画作成においては、創意工夫を生かした研究的な探究的な学習が行われることが期待されています。学校の教育目標を踏まえ、各学校が主体的かつ創造的に全体指導計画を作成し、学習活動を展開することが求められています。「はままつの教育」P51.52 参考にしてください。

探究課題の設定にあたっては、先に述べた3つの柱を念頭に行ってください。探究課題は互いにつながり合い、関わっていることもあります。3年は「環境」、4年は「福祉」というようにならないでほしいと思います。全体計画は、随時見直し、必要に応じて変えて行くことができます。実態に応じて変更していくことが大切です。

具体的な資質・能力とは、学校の目標をさらに細かい目標にしたものとな



ります。3つの柱（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性）の中で、子供たちにつけたい力がどの柱に一番近いのかを考えていくことが必要です。

「知識および技能」のうち、「知識」とは、探究の過程を通して、自分自身で取捨選択し、整理していくものであり、すでに持っているものです。すでにある知識をより概念的な知識へと移行できるように、各学校で、どのような概念を形成することを期待するのか明示する必要があります。自校だからこそ習得できる概念的な知識を考えてください。



「技能」は、自分で行っていく中でより高度なことが出来るようになっていくものです。求めるものは学校によって違うので、学校の特色がよく現れます。まずは形にしてみる事が大切です。

「思考力・判断力・表現力」は知識および技能が明確にならないとできません。課題や状況に応じて選択したり、適用したり、組み合わせたりして活用できるようになっていくまでが求められます。知識および技能を自在に駆使し、「課題設定→情報収集→整理分析→まとめ・表現」を通して身に付けていきます。



「学びに向かう力・人間性」は、探究的な学習に主体的・協働的に取り組む姿勢です。知識・理解、思考力・判断力・表現力がついていけば、学びに向かう力・人間性も身についてくるものです。自分自身の考えを持つことや他者の考えを受け入れていくこと、知識・技能の資質能力を見直すことが大切です。